

芸亭

うん てい

Nara Prefectural Library and Information Center

奈良県立図書情報館

vol.13



能楽公演 観世流能「海士」寤之伝(2020年11月1日[日])より

「サヨナラ」ダケガ人生ダ

奈良県立図書情報館館長 千田 稔

今年の春一番は、二月の下旬の頃だった。やかましく、ガラス戸をたたくのは、まるで春のたたき売りの感もした。いや季節感にうとい私を目覚めさせようとしたのかもしれない。

私は、ふと「春嵐」という言葉の素性を知りたくなった。漢詩に詠まれているかもしれないと、ネットを探してみた。最初に飛び込んできたのは、若い歌手の「春嵐」という歌の歌詞だった。「サヨナラ」という言葉があった。春の嵐は人を別離に誘うのか。さらに、ネットの海を漂うと唐代の詩人于武陵の「勸酒」の作品に出逢った。

君に勸む 金屈卮(きんくつし) 満酌(まんしゃく)辞するを須(もち)いず
花発(ひら)けば 風雨多し 人生別離足る

拙訳。「この金色の杯の酒を君に捧げん。酒は杯に溢れんばかり、遠慮するにあたわず。花が開けば、風雨に散らされる。人生の別れもかくの如し」

井伏鱒二の名訳がある。コノサカヅキヲ受ケテクレ/ ドウゾナミナミツガシテオクレ/
ハナニアラシノタトヘモアルゾ/ 「サヨナラ」ダケガ人生ダ

とりわけ、「サヨナラ」ダケガ人生ダという個所が人の胸を打つ。名訳と称されるゆえんである。井伏がこの訳をつけたのは、瀬戸内の因島に、林芙美子とともに、知人を訪ね、岸壁の人達から船上の二人に別れの声が飛んで来た時の情景である。井伏は「(扶美子が)いきなり船室に駆けこんで、『人生は左様ならだけね』と云ふと同時に泣き伏した」と書いている。「(因島半歳記)」

芙美子の男性遍歴はよく知られている。別れの悲しみと辛さを背負った多感な人生だった。「サヨナラ」ダケガ人生ダ。

題字：天理大学附属天理図書館蔵「石上宅嗣卿顕彰碑」より

Contents

巻頭言

「サヨナラ」ダケガ人生ダ

1

新型コロナウイルス対応について

2

note公式アカウント開設について

4

貴重資料のデジタル化について

デジタルアーカイブのライセンス表示について

5

2020年度の図書展示から

6

館内照明のLED化など

8

2020年度のイベントと展示

9

新型コロナウイルス対応について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館は令和2年3月2日(月)から休館しました。当初は2週間だけの予定でしたが、感染拡大に歯止めがかからず、全都道府県への緊急事態宣言発令もあり、最終的に5月半ば過ぎまで延長となりました。来館者が誰ひとりいない休館中の館内は、ぽつんと荒野に置き去りにされたような孤独感とともに心に穴が空いた気にさせるほど、広く無機質でした。でも、悲観しているわけにはいきません。この機会にこそ普段できない作業をと、書架の大掃除から本の整理・修理、自動化書庫の蔵書点検やマイクロフィルムの巻替えと傷みチェックなどを行いました。

一方、来館を伴うサービスができない間も、障害のある方への郵送サービスや郵送複写、メール等によるレファレンスサービスは通常どおり実施していました。返却ポストなどを通じてどんどん返ってくる本は数日間別置してから書架に戻し、また職員の手洗いやマスクの着用を徹底するなど、感染防止に十分留意しながら業務にあたりました。

そして5月19日(火)から、ようやく一部来館サービスを再開できることになりました。ただし長時間の滞在を避けるため当面は貸出返却のみで、椅子と備え付けパソコンをすべて撤去のうえカウンターには透明の遮蔽板を設置しました。また進行方向や並ぶ場所を床にテープで表示し、返却本は閲覧スペースへのゲート通過地点で受け取るなど、可能な限り密にならない工夫をしました。利用できるフロアは3階のみでしたので、2階の大活字本や情報関係の本などはできるだけ3階の机などに移動しました。対面でのレファレンス業務は、奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議が定める「フェーズ3(県内及び近隣地域の感染判明者がほとんど見られず、新規判明増加の傾向も発見されない状況)」が再開の条件となり、原則的に書架から本を選んで借りるだけの利用となりましたが、新しい本を借りられる喜びを感じていただけたのではないのでしょうか。



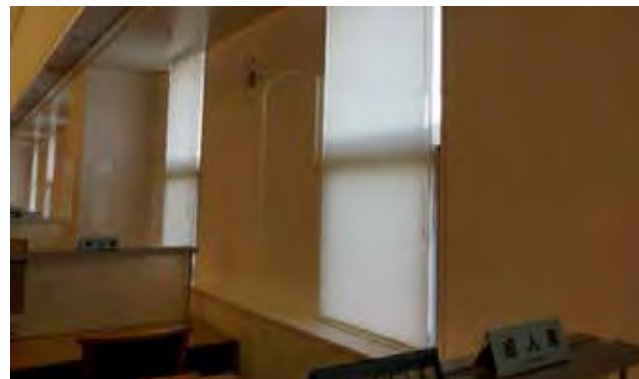
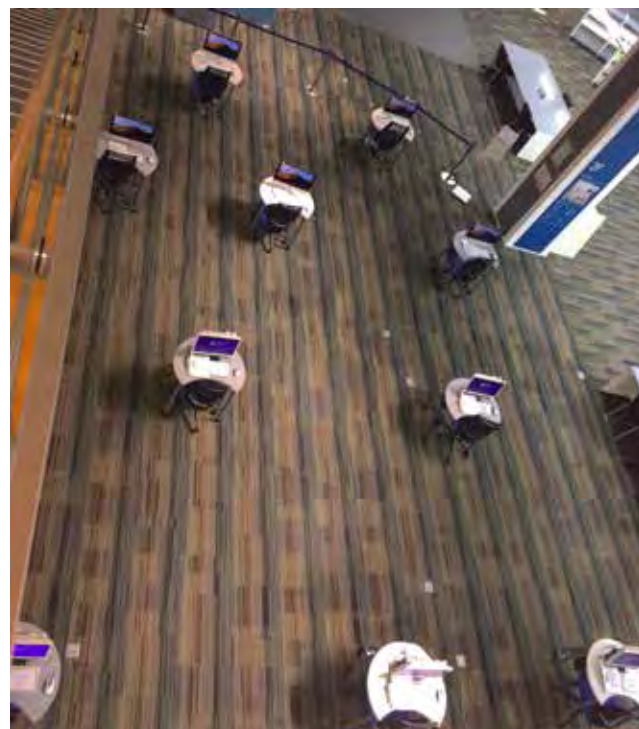
なお、一部開館と同時に、利用できる冊数と期間を5冊15日間から2倍の10冊30日間に変更しました。外出自粛が呼びかけられている状況なので、家でじっくり読書していただくという考えからでした。ただ、5～6月のイベントは悉く中止や延期となったので、多くの方が残念に感じられたと思います。



6月16日(火)、3階の閲覧席や雑誌の最新号などが利用できるようになりました。ソーシャルディスタンス(社会的距離)を確保するため、椅子や施設利用は半分以下の人数に制限し、館内の出入口に消毒液を設置するとともに、階段の手すりやエレベーターのボタン、蔵書検索機など多数の方が触れる部分は定期的に除菌することにしました。

7月1日(水)には2階フロアも再開し、同時に備え付けパソコン15席を含む情報機器や新聞・官報の閲覧が利用可能となりました。10月に入る頃からは対面座席に飛沫防止用アクリルパネルを順次設置し、そのつど座席を増やしていくことができました。

来館者の皆さんと職員一同感染防止に留意し、令和2年度末現在、幸いにも館内での感染者を一人も出さずに開館することができています。私たちは今できること、この状況だからこそできることを手探りし、新しいサービスを提供したいと考えながらコロナ禍を過ごしてきました。想いをかたちにする奈良県立図書情報館を、職員は今も模索しながら実践に向けて日々努力を重ねています。後に続くページで、いくつかの成果をご紹介します。



(松村 順子)

note公式アカウント開設について

当館は、新しい情報発信のひとつとして、note公式アカウントを開設しました。

noteは、文章・写真・イラスト・音楽・映像などの作品を配信するメディアプラットフォームで、新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛要請が本格化した2020年4月以降、アクティブユーザーが急増しています。

まずは、web展示「BBB」と動画「古文書超入門講座」の2つのコンテンツを用意しました。今後も「館」や「ホームページ」という枠組みにとらわれず、「リアル」と「ネット」の特性を利用しながら多方向に展開し、当館との出会いだけでなく、誰かと誰か、何かと誰かが巡り合う場所、人々の「物語」を豊かにするプラットフォームにすることを目指します。



(山崎 純)

web展示「BBB」始めました！～ただの展示ではありません～



外出自粛が呼びかけられる中、webを利用して図書館ができてこと、私たち司書だからこそのことはないだろうかと、知恵を絞ってきました。

その結果生まれたのがweb展示「BBB」です。「BBB」とは、「The Bridge Between Books and _____(本と_____の架け橋)」の略で、私たちの発信するものが本と何か、本と誰かを結ぶ架け橋になりますようにという意味を込めました。

「BBB」ではまず、あるテーマの本を3冊紹介します。そして、テーマから連想したものを表現した「連想図」が続きます。私たちは業務を通じて、たくさんの本、たくさんの人の「知りたい」に触れます。そんな私たちの、思いもよらないひきだしを表現するのがこの連想図です。また、note読者からも

テーマに関する本をコメント投稿してもらい、連想図に反映させます。

さらに、館内でも本と連想図の展示を行い、コメント投稿された本が当館にあれば、それもどんどん追加していきます。司書だけが作る館内図書展示とは一味違う、みんなで作る展示を楽しんでいただければと思います。



(藤本明希子)

動画「古文書超入門講座」



古文書と聞くと、多くの人は和紙に行書体や草書体で書かれた墨の文字が頭に浮かぶのではないのでしょうか。これを「くずし字」といいます。くずし字を読むためには、それぞれの文字がどのように崩れているか理解しないといけません。そこには変体仮名や異体字といった、今では学校で習わない文字が含まれます。したがって、古文書を読むにはくずし字の勉強をするとともに、当時の文章の特徴を知ることが不可欠です。

そこで今回、くずし字で書かれた古文書を読む手順を知るところを最終目的に、動画「古文書超入門講座」の作成を開始しました。

講座では、活字で書籍化されている江戸時代末期の奈良奉行・川路聖謨の日記「寧府紀事」をテキストとして、近世にどのような文字が使われていたのかを知るところから始めています。今後、日記を現代語に翻訳して古文書の知識を学びながら、近世奈良の様子を紹介していく予定です。

(中西 玄)

貴重資料のデジタル化について

令和2(2020)年8月、国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」により当館所蔵の古典籍から106タイトル(203点)がデジタル化され、当館ウェブサイト内「まほろばデジタルライブラリー」で画像を公開しました。

古典籍とは、近世までに国内で出版・書写された書物のことで、これまでも予算化の機会を見つけてはデジタル化を行ってきました。そして今回の取り組みにより、当館が所蔵する奈良関係の古典籍は、他機関が公開したものも含めてほぼすべてがインターネット上で閲覧できるようになっています。

一方これとは別に、引札(ひきふだ)や小型の絵図など50点余の画像も公開しました。

引札とは現代の広告ちらしのことで、江戸時代以降、商品の宣伝や開店披露などの情報を書いて配られていました。当館には寄託資料「大和国吉野郡下市村永田家文書」内の18点を含め計20点あります。錦絵の伝統を残す明治期の引札は多色刷りで美しいものが多く、絵柄には牛若丸や忠臣蔵のような物語のほか、正月用には七福神や松竹梅といった縁起物選ばれました。中には時代を反映した絵柄もあり、当館の引札にも幻灯機(スライドプロジェクター)が描かれているものがあります。

これらの貴重資料は館内閲覧限定のうえ取り扱いにも細心の注意が必要ですが、このようにデジタル化して公開すれば、インターネットを通じて「いつでも・どこからでも」利用できますので、より広く活用してもらえればと思います。



(中西 玄)

デジタルアーカイブの ライセンス表示について

「まほろばデジタルライブラリー」では、古文書や絵図など12万点余のメタデータを登録しています。そのうち約6千点についてはデジタル画像も公開しており、その数は約10万コマに達しています。今回、その画像を対象にクリエイティブ・コモンズライセンス(CCライセンス)を明示しました。

CCライセンスとは、インターネット上の作品などに対して、二次利用をする際の条件を表示するツールです。条件には「営利目的での利用の可否」など4種類あり、作者や所有者が組み合わせます。

当館では、「奈良県立図書情報館所蔵」のクレジット表示をすれば二次利用できるライセンスとしました。またこのうち古文書や絵図などは改変も可能なライセンスとしていますので、商品パッケージ化など幅広く利用していただくことを期待しています。



(山崎 純)

2020年度の図書展示から



2nd Story ～ベストセラー2位の物語～ 2020年7月1日～8月30日 3階ブリッジ

令和2(2020)年は“2”が3つ重なる年なので、“2”をキーワードとして戦後日本のベストセラーランキング2位に焦点を当て、当館が所蔵する58作品にまつわるエピソードなどを記したミニパネルを作成し、関連図書も含めた約250冊を並べました。

あるキーワードから連想する図書を幅広く集めた場合は様々なテーマが複合的に関係しあって一つの展示となりますが、今回は明快に「ベストセラー2位」だけがテーマでした。音楽の世界というコンピレーション・アルバムの図書展示版といったところでしょうか。

ご覧になった方からは、太宰治や三島由紀夫が1位になっていないこと、一世を風靡した『ノストラダムスの大予言』や『マディソン郡の橋』、最近では『ハリー・ポッター』シリーズなども2位だったことが興味深いなどの感想をいただき、またミニパネルに吹き出しで表示した同年1位の作品を見た方からは、驚きと納得の両極端の表情が見られました。



(中西 玄)

災害を思考するー本質を見抜き備えるー

2020年2年8月29日～9月29日 3階 ブラウジングコーナーなど



新型コロナウイルスの影響で世界的ベストセラーとなったカミユの代表作『ペスト』など、疫病や災害に関する作品を集め、文学から災害を考える図書展示を催しました。書庫に何年も眠っていた古い本もありましたが、今回たくさんの方に手にとっていただきました。様々な災禍に見舞われている現在、時代を超え注目を浴びているのでしょう。この機会に、災害防災文庫をリニューアルしてこれら作品を一カ所に並べ、本展示開催後もご利用いただきやすくしています。

また、ブラウジングコーナーでは、奈良県土砂災害防災週間(令和2年8月29日～9月6日)にあわせ、避難対策に役立つ資料を展示しました。土砂災害対策として、当館の資料を使ってオリジナル防災マップを作成していただけるよう「自然災害の地域特性を知るための調査方法」をパネル展示し、奈良県防災コンテンツ「防災から身を守ろう」もご視聴いただきました。

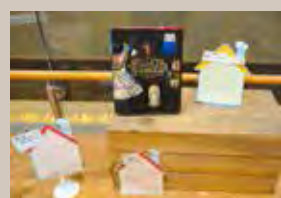
(片山 智加子)

学問&趣味マルシェ ～奈良女的ステイホームのススメ～ 2020年9月1日～10月29日 3階ブリッジ

当館では、毎年奈良女子大学から文化メディア学インターンシップとして学生を受け入れています。本展示はその学生たちが企画したもので、外出自粛が呼びかけられる中、おうち時間を豊かにするための図書を“奈良女的”ステイホーム本として選びました。

3つ設定したカテゴリーは、まず屋内での時間を豊かに過ごす「インドア系趣味」、次に三密を避けたり外出気分を味わったりする「アウトドア系趣味」、そして学生たちが普段学んでいる内容を紹介する「学問」です。

たとえば「インドア系趣味」では英語関連図書が、「アウトドア系趣味」では民族衣装やパブリックアート関連図書が選ばれ、また「学問」では文化社会学やジェンダー論の入門書が並ぶなど、いつもよりアカデミックな雰囲気な図書展示となりました。



当館は学術的な図書を多く所蔵しています。大学図書館と市町村立図書館・図書室との中間的な蔵書構成だからこそできる、県立の図書館ならではの展示と言えるでしょう。

(中西 玄)



世界のブックデザイン2018-19

2020年10月31日～12月27日 3階ブリッジ

この展示は例年春に開催してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大にともなって延期となり、秋にようやく開催することができました。

今回は、2019年3月のライプツィヒ・ブックフェアで公開された「世界で最も美しい本コンクール」の入選図書とともに、日本・ドイツ・オランダ・スイス・オーストリア・カナダ・中国の7つのコンクールで入賞した優れた図書約170点を展示しました。

また、2019年は日本とオーストリアが国交を樹立して150周年にあたる年でもありましたので、その記念にこれまでの受賞作品の中から厳選された20点のオーストリアの図書も一緒に展示しました。

会場ではほとんどの本を実際に手に取ることができ、世界最高峰のブックデザインと造本技術を楽しんでいただきました。SNSでも開催前から取り上げられ、また日本におけるこの展示会の開催が当館と東京（凸版印刷株式会社 印刷博物館）のみということもあって、遠方から来館される方も多くいらっしゃいました。

（乾 聡一郎）



観光地・奈良の姿 ―明治・大正・昭和初期編―

2021年2月20日～3月30日 3階ブリッジ

当館は、地域の歴史を知るための貴重な知的財産を収集・保管し後世へと継承する重要な役割を担い、図書館として奈良県関係の図書や雑誌などを収集することはもちろんですが、あわせて公文書の収蔵もしています。

本展示では、こうした公文書館としての当館の機能をより多くの方々に知っていただくため、奈良県が日本を代表する観光地に数えられるまでの基礎が築かれた明治時代にさかのぼり近代観光の変遷を、昭和初期まで公文書などの歴史資料とともに振り返りました。あ



わせて絵葉書や写真をパネルで展示するほか、解説パネルから当時の観光地・奈良の様相を幅広くご紹介しました。

多くの方々に興味を持っていただけるよう、公文書だけでなく地図などの資料も織り交ぜながら展示ケース内の資料を工夫して選定し並べました。普段は書庫に収蔵していて目に触れる機会のない資料ですが、それらを展示することで当館の機能をより深く知っていただく機会となったのではないのでしょうか。

（松田 憲子）



東日本大震災10年 ～3.11、あの日何が起こったのか～

2021年2月27日～3月30日 3階ブラウジングコーナーなど



2011年3月11日、未曾有の被害を引き起こした東日本大震災。被災地から遠い関西では、テレビや新聞の限られた情報しかなかったという方もおられたと思います。あの日、何が起こっていたのでしょうか…。震災から10年がたった今、改めて知見を深めていただけるよう企画したのがこの展示です。当時の記事や証言集に加え、私たちに今できる支援や応援策を探っていただけるよう、復興にかかわる資料、著名人が書いた評論、東日本大震災をモチーフにした小説を並べました。POPをつけたピックアップ本もあります。他にも、宮城県

石巻市の「希望の缶詰」で有名な木ノ屋石巻水産様よりご提供いただいた写真をパネル展示しました。まだ支援物資も充分にない避難所で、瓦礫の中から見つかった缶詰は食料としてだけでなく、多くの方が元気を取り戻す源になり「希望の缶詰」と言われたそうです。社員の方々が写真撮影された身近な光景は、被害の甚大さを物語っていました。

（片山 智加子）

館設備のリニューアル

外部サインの修繕

開館後 15 年たち、外部サインが痛んできていましたので、サインを新しくしました。あわせて、サイン照明、駐輪場の照明、駐車場ゲートの照明を LED に変更しました。



交流ホール・セミナールーム AV 設備リニューアル

昨年度につづき、交流ホール、セミナールームの AV 設備をリニューアルしました。今年度は、ワイヤレス受信設備のデジタル化をおこない、マイク設備を改良、イベントの Youtube 等ができるよう、ライブ配信設備を設置しました。また、セミナールームのプロジェクターを床置きから天井吊に変更し、さらに交流ホールの南側窓すべてを開閉できるように変更し、空気の入れ替えがしやすいように改良しました。



館内照明の LED 化

今年度から、故障した照明を中心に、館内照明の LED 化を進めています。今年は、2F 閲覧フロア、3F ブリッジ、カウンター前の照明の LED 化をおこないました。



(川畑 卓也)

2020 年度の イベント 展示

奈良県立図書館情報館
Nara Prefectural Library & Information Center

4 月

5 月

6 月

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、3月2日[月]から5月18日[月]までの臨時休館、および、臨時休館終了後の5月19日[火]から6月末まで、当館主催イベントと企画展示は一件を除き行わなかった。

6/16日[火]～7/30[木] 映像作家 保山耕一 常設上映
『初夏の色彩』



7 月

1[水]～19[日]『スマイルバスで行くディープな吉野の旅』刊行記念展 吉野の魅力を発信する地元の有志団体「吉野スタイル」によるガイド本『スマイルバスで行くディープな吉野の旅』は、2012年からの8年間で計50開催した吉野を巡る旅の記録で、濃厚な吉野を味わえる旅の手引書として20年5月に上梓。本展では、吉野の人が地元のバスを使い地元について紹介した魅力的な旅をパネルで紹介。



23[木祝]夏の能楽講座

「なら燈花会能」で上演される演目を予習する講座。「能にして能にあらず」といわれる「翁（おきな）」と能の傑作「融（とおる）」の二曲を、出演する能楽師・観世流シテ方山中雅志と観世流大鼓方森山泰幸がレクチャー。



25[土] コウモリ観察会～こもり博物館観察会企画 2020 第1回 NPO 法人東洋蝙蝠研究所・こもり博物館がナビゲート。「コウモリ探知機」を使い、夕暮れ時に庭園を飛び交うコウモリを観察しました。



観察会の様子

26[日] 図書館劇場 XV 第1幕

図書館情報館開館年の平成18年から続く、千田稔図書館情報館長による連続公開講座。<プログラム>映像詩 保山耕一（映像作家）/ 講演①「行基図と神国論」千田稔（当館館長）/ 朗読 都築由美（フリーアナウンサー）/ 講演②「新薬師寺の実体と復元」金原 正明（奈良教育大学教授）



8 月

1[土]～30[日] 映像作家 保山耕一 常設上映
『千年の祈り なら燈花会』



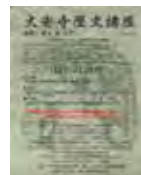
8 日[土] 国際協力映画会 in 奈良 第1回「中南米コスタリカ&ペルーの自然を守れ」ドキュメンタリー映画の上映と、コスタリカとペルーに派遣経験のある海外青年協力隊 OB・OG の講演会を開催。<プログラム>第1部講演会「コスタリカの暮らしと文化」田中宏幸（青年海外協力隊 OB）、田中ペロニカ/第2部ドキュメンタリー映画上映会『最後の楽園 コスタリカ～オサ半島の守り人』/第3部講演会「ペルーアマゾン動物たちと共に」古川光咲（青年海外協力隊 OG）



9[日] コウモリ観察会～こもり博物館観察会企画 2020②



22[土] 大安寺歴史講座 Ver.1「大安寺と弘法大師空海」第1回「大安寺の空海登場前史―義浄と道慈」<講師>櫻木潤（高野山大学文学部密教学科講師）



9 月

1[火]～29[火] 映像作家 保山耕一 常設上映
『ひまわりは、泣かない』



10[木] 2020 年度こども能楽教室 能楽のお囃子「大鼓」のお稽古をしてみよう。

奈良で発祥した日本を代表する伝統芸能「能楽」について子どもたちが学ぶ講座。関西の能舞台を中心に活躍するプロの能楽師が、囃子の道具「大鼓（おおづみ）」の稽古を行うほか、奈良と能楽の歴史や演目についてお話。全10回。9月10日の1回目をはじめに12月まで2回の稽古を行い、1月7日に発表会のリハーサル、1月11日に発表会を開催。講師：能楽森田流笛方 森田啓子 能楽観世流大鼓方 森山泰幸



13[日] 鼎談 光明皇后を語る
京都女子大学名誉教授・瀧浪貞子、小説家・澤田瞳子、千田稔（当館館長）が、光明皇后について鼎談。



22[火祝] 藤原不比等を語る会
講師・旭堂南照（きょうどうなんしょう）が「新作歴史講談『藤原不比等と支えた妻たち』」など計二席を披露。千田稔 図書情報館長が「漢詩的人間としての不比等」と題し講演。主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、当館 ☆YouTube ライブ配信



24[木]～10/11[日] フィリピン「ミンダナオ子ども図書館」と絵本『サンパギータのくびかざり』原画展
「ミンダナオ子ども図書館」は、日本に一番近い紛争地域フィリピン・ミンダナオに、児童文学者・松居友（まついとも）が2002年設立。

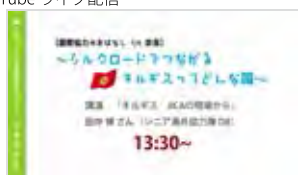


80人近くの子どもの暮らしの場となっています。本展では現地のようすをパネルで紹介するとともに、松居さんの絵本『サンパギータのくびかざり』（ボン・ベレス画、今人舎）の原画を展示。また、ミンダナオの子どもたちに服を届けるため、家庭に眠っている「子ども用夏服」を預かる窓口を会期中の6日間設置。集まった約1万5千着は年内12月ミンダナオに到着。現地の図書館のスタッフにより避難生活が続く子どもたちに手渡しされました。

24[木]～10/11[日] 天理大学「国際参加プロジェクト」
本当の学びは、国境の向こう側にあった



26[土] 国際協力のおはなし in 奈良 シルクロードでつながるキルギスってどんな国
シルクロード交易で、奈良とも昔から関わりのあった中央アジア・キルギス共和国に派遣された JICA 海外協力隊 OB・OG が同国を紹介。<プログラム>講演1「キルギス JICA の現場から」田中博（シニア海外協力隊 OB）、講演2：「チャルボンアタ県の実験現場と子どもたち」吉野雅彩（青年海外協力隊 OG） ☆YouTube ライブ配信



<https://youtu.be/giRySpQvAF4>

27[日] 図書館劇場 XV 第2幕 <プログラム>映像詩 保山 耕一（映像作家）/ 講演①『『古事記』神話と『日本書紀』神話—異なる世界観—千田稔（当館館長）/ 朗読 都築 由美（フリーアナウンサー）/ 講演②「大宝律令と藤原不比等」久禮 旦雄（京都産業大学法学部准教授）



1[木]～29[木] 映像作家 保山耕一 常設上映
『映像詩、天平の祈り』



3[土] 講演会 ミンダナオと日本の子ども：生きる力ってなんだろう？
フィリピン『ミンダナオ子ども図書館』と絵本『サンパギータのくびかざり』原画展 関連企画。児童文学者でミンダナオ子ども図書館館長 松居友（まついとも）講演会。☆YouTube ライブ配信



11[日] 国際協力映画会 in 奈良 第2回 世界のコーヒー農家の暮らしと消費者の関係 エチオピア・ネパール 世界各国で生産されるコーヒー。その裏側にある流通や農家の現状から、消費者との持続可能な関係を考える。<プログラム>講演「エチオピア 未来をつくる森林コーヒー」森永太一（JICA 専門家）※web 講演 / 講演「ネパール 持続可能なオーガニックコーヒー」シェリバ・絢子（青年海外協力隊 OG）/ 映画「おいしいコーヒーの真実」（78分、日本語字幕） ☆YouTube ライブ配信



web 講演の様子



<https://youtu.be/KBMgevHdt0>

24[土] 大安寺歴史講座 Ver.12 「大安寺と弘法大師空海」第2回
「大安寺と若き日の空海—阿刀大足と大安寺をめぐる人々—」<講師>櫻木潤（高野山大学文学部密教学科講師）



29[木] 「藤原不比等ゆかりの能『海士』を楽しむ事前予習講座」
図書情報館で11月1日[日]に開催する能楽「海士」公演を事前に予習して、当日の鑑賞に備える講座。出演能楽師による演出や見どころ、能楽研究者による解説をお聞きいただきました。<講師>森山幸泰（能楽師）、朝原広基（能楽研究者）



10/31[土]～11/26[木] 映像作家 保山耕一 常設上映
『平城（なら）の月』



11月

1[日] 能楽公演 観世流能『海士』
『海士』は、藤原氏にまつわる伝説を素材に、ドラマチックに作り上げられた作品。「日本書紀完成・藤原不比等没後1300年」を記念し開催。出演：シテ山中雅志、子方森山詩織 主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、当館 ☆YouTube ライブ配信



17[火]～29[日] 木版画家
宮田渚展「奈良のほとけさん
を中心に」

宮田渚さんは、奈良の風景を
テーマにした木版画作品を数
多く制作。昨年に次ぐ今回の
作品展では、奈良の仏像など
をモチーフにした作品を中心
に展示。



22[日] 図書館劇場 XV 第
3 幕

<プログラム>映像詩 保
山 耕一 (映像作家) / 講演
①『『日本書紀』その後の
読まれ方 その1 万葉
集の場合』千田 稔 (当館
館長) / 朗読 都築由美
(フリーアナウンサー) / 講
演②『興福寺の歩み ～受
け継ぎ受け渡す～』辻 明
俊 (興福寺執事)



28[土] 図書館寄席 花鹿乃芸
亭 第 55 回
出演：桂あやめ、桂文鹿



28[土]～12/27[日] 映像作家 保山耕一 常設上映
『映像詩、大和の秋』



12月

19[土] 大安寺 歴史講座
Ver.12 「大安寺と弘法大師空
海」第 3 回 「大安寺と弘法
大師空海一平安時代初期の大
安寺」講師：櫻木潤 (高野
山大学文学部密教学科講師)



1月

5[火]～28[木] 映像作家 保山耕一 常設上映
『晩秋の春日奥山』



16[土] 図書館寄席 花鹿乃芸亭 第 56 回 「桂文鹿・桂
米輝 ふたり会」、桂白鹿

24[日] 図書館劇場 XV 第
4 幕 <プログラム>映
像詩 保山 耕一 (映像作家)
/ 講演①『『日本書紀』そ
の後の読まれ方 その 2
『『日本書紀』の場合』千田
稔 (当館館長) / 朗読 都
築由美 (フリーアナウン
サー) / 講演② 藤原不比
等の墓』今尾文昭 (前奈
良県立権原考古学研究所
調査課長、関西大学 非常勤講師)



30[土]～3/30[火] 映像作家 保山耕一 常設上映
『映像詩、藤原不比等』

出演：法華寺 門主 樋口教香、千田稔 (当館館長)
主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、
当館



2月

6[土] 能楽公演 観世流能『百
萬』 春の嵯峨野を舞台に、奈
良にゆかりのある舞の名手・
百萬が生きた子と再開を
遂げる物語『百萬 (ひやくま
ん)』を上演。出演：シテ 山
中雅志、子方 森山詩織



20[土]～28[日] 奈良県里親
会 里親啓発写真展「ともに、
暮らす」 写真家「キトキ」が
里親家庭を撮影した作品約 50
点を展示。最終日の 2/28 (日)
には、写真家キトキ + 奈良県
里親会によるギャラリートーク
を開催。



27[土] 奈良県里親
会 スキルアップ研修
「奈良県里親会 里親啓
発写真展「ともに、暮
らす」関連講演会。

<プログラム>第一部 講演「親子の関わり
の在り方を考える～
子どものころを育む
アタッチメント～」
講師：大阪母子医療セ
ンター 子どものこ
ころの診療科 主任部長 小杉恵、第二部「里親の暮らし」
小杉恵先生と里親が子育てについて語りました。併せ
て、講演中は「託児」を行いました。



3月

6[土] 図書館寄席 花鹿乃芸
亭 第 57 回 出演：林家染
二、桂文鹿、桂雪鹿



9[火]～30[火] 松田
大児さんの絵 奈良と
種子島を拠点に創作活
動を続ける画家・松田
大児 (まつだたいじ)
の作品展を開催。本展
では主にこれまで出版
された絵本作品の原画
を中心に展示。



通年

13[土]観世流能『国栖』を楽しむ鑑賞前講座
能楽『国栖（くず）』公演（3/27）を事前に予習して、当日の鑑賞に備える講座。＜講師＞森山泰幸（能楽師）、朝原広基（能楽研究者）



14[日]おはなし会 その①『高蔵とショウ』 — 「松田大児さんの絵」関連企画 画家・松田大児の母校・奈良育英学園創立を描いた絵本『高蔵とショウ』のおはなし会。作者で元学園教諭の船津喜美子さんと松田さんが登場。表題作のほか『大仏くらべ』『アロハジャーニー』の読み聞かせとトークを行いました。



21[日]おはなし会 その②『蛙飛び』ほか — 「松田大児さんの絵」関連企画 吉野・金峯山寺の神事「蛙飛び」の由来を描いた絵本『蛙飛び』（著者：総本山金峯山寺、画：松田大児）などのおはなし会。表題作のほか『鬼と行者さま』『山中七策』『旅人の甘い蜜 仏説譬喻經』の読み聞かせを行いました。出演：南ゆうこ（朗読家）、かんのとしこ（アコーディオン奏者）



27[土]能楽公演 観世流能『国栖』「壬申の乱」をモチーフにした能楽『国栖』を上演。
出演：シテ山中雅志、前ツレ井戸良祐、後ツレ山下あさの、子方森山詩織、ワキ 江崎欽次朗
☆YouTube ライブ配信



28[日]図書館劇場 XV 第5幕 ＜プログラム＞映像詩 保山耕一（映像作家）/講演①『『日本書紀』その後の読み方 その3 津田左右吉の場合』千田稔（当館館長）/朗読 都築由美（フリーアナウンサー）/講演②『レジャーランドと昭和の怪物たち - 奈良ドリームランド、横浜ドリームランド、船橋ヘルセンター -』内田忠賢（奈良女子大学教授（文学部、大学院人間文化総合科学研究科）、奈良女子大学附属中等教育学校（中高一貫）校長）



図書館学校 主に高校時代の教科科目から、今につながるテーマをピックアップし学び直す講座。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策などにより、開催は2期、各授業1回きりとした。（第1期：9～11月、第2期：1～3月）



法務無料相談会&知識セミナー 7月から3月の毎月1回開催。相続・遺言、成年後見、公正証書、不動産、クーリングオフ、年金、社会保険など、気になる法律問題について専門家が講演。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策などにより、個別の相談会は行わなかった。



中小企業診断士による体験学習会&無料経営相談会 問題分析や解決方法などについてレクチャーする体験学習会を11・12・1月に開催。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策などにより個別の経営相談会は行わなかった。



日本弁理士会近畿支部奈良地区会による『知的財産講座&無料相談会』 著作権などの知的財産について弁理士が講義。今年度は10月、12月に行なった。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策などにより個別の相談会は行わなかった。



佐保川まちづくり塾パソコン教室 NPO 法人奈良シニア IT 振興会のスタッフが講師を務めるパソコン講座。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対策などにより10月から再開。



声に出して読んで味わう読書会 2020 この読書会は、声に出して本を読んで、言葉のもつ、響き、独特のリズム舌触りなどを楽しむもので、昨年度から新たなイベントとして開催。今年度は、8月から1月までの計6回。



声に出して読んで味わう読書会 2021 2月から9月まで8回の実施予定。今年度は第2回まで開催。



【動画配信（字幕つき）】奈良県立図書館情報館長公開講座 図書館劇場番外編「語りかけ 天平の嵐」
新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館が続いたため、千田館長が「天平の嵐」と題し、奈良時代に国中で蔓延した天然痘から、当時の政治的問題などを掘り下げ、5月8日（金）より毎週一回（全12回）動画配信しました。



第1回 序 <https://youtu.be/WN-9Plzfddl>

第2回 壬申の乱 <https://youtu.be/cblGuv2J2nU>

第3回 天武天皇 https://youtu.be/Pt_QctQJ6SU

第4回 新益京 <https://youtu.be/ODowAl8-4ok>

第5回 嵐の予感 <https://youtu.be/KmKdbX73458>

第6回 聖武天皇と長屋王 <https://youtu.be/HG8EHBPWU4>

第7回 天然痘蔓延 <https://youtu.be/TFxGhnbk0M>

第8回 天然痘と政權 <https://youtu.be/MODGF1OSFQo>

第9回 聖武の決断 <https://youtu.be/BSOff3B9IOI>

第10回 無念の平城遷都 <https://youtu.be/ne81aZdmmQY>

第11回 三宝の奴 <https://youtu.be/JTg-BTCQTWQ>

第12回 王と奴 <https://youtu.be/2h66kbUQdK>

※新型コロナウイルス感染拡大予防対策などにより開催されなかった相談会等は次の通り。
医療・健康相談、ITサポートデー。

（伊藤 享子）